

令和6年度(2025) 卒業生アンケート調査

集計結果報告書

2026年4月

学校法人浦山学園 富山福祉短期大学

富山福祉短期大学 卒業生アンケート調査 集計結果報告書

目次

I.調査の概要.....	2
II. アンケート調査回答結果.....	3
1. 基本情報.....	3
2. 現在のあなたの仕事からみた、本学の「講義全般」について.....	4
3. 現在のあなたの仕事からみた、本学の「実習」について.....	5
4. 本学の就職・進学支援体制.....	7
5. 卒業後のサポート.....	8
6. 後輩へのアドバイス.....	8
III. まとめ.....	10
IV. 学科ごとの考察.....	11
V. 2024年調査結果との比較.....	13

I. 調査の概要

■調査目的:

- ・社会のニーズに応えられる人材の育成と輩出を図り、今後の本学の教育サービスの充実と改善につなげる
- ・調査結果を踏まえた教育改革・改善

■調査対象:

令和 6 年度（2025 年 3 月）卒業生（120 名）

■調査方法:

調査対象者に郵送にて QR コードを載せたハガキを送付ならびにメールし、Google フォームにて回答

■調査期間:

令和 7 年 10 月 31 日～令和 7 年 12 月 26 日

■回収結果:

送付数:120 件、回収数: 21 件（回収率 17.5%）

II. アンケート調査回答結果

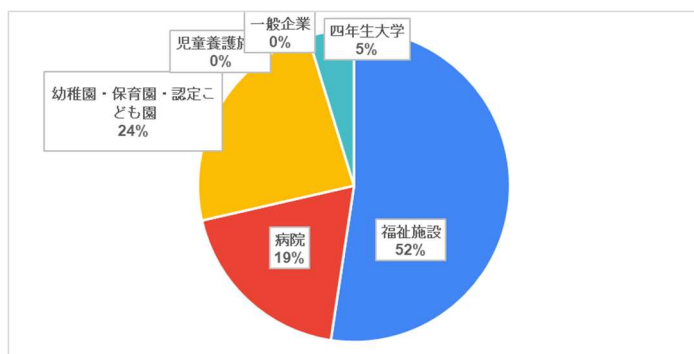
1. 基本情報

(1) 学科・選考

	対象	回答数	回収率
社会福祉学科	29	11	37.9%
看護学科	54	4	7.4%
幼児教育学科	29	6	20.7%
国際観光学科	3	0	0.0%
専攻科	5	0	0.0%
全体	120	21	17.5%

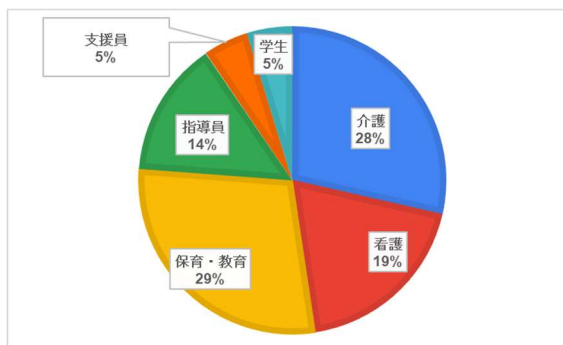
(2) 勤務先・進学先の種別

	回答数	割合
福祉施設	11	52.4%
病院	4	19.0%
幼稚園・保育園・認定こども園	5	23.8%
児童養護施設	0	0.0%
一般企業	0	0.0%
四年生大学	1	4.8%
全体	21	100.0%



(3) 主な業務内容

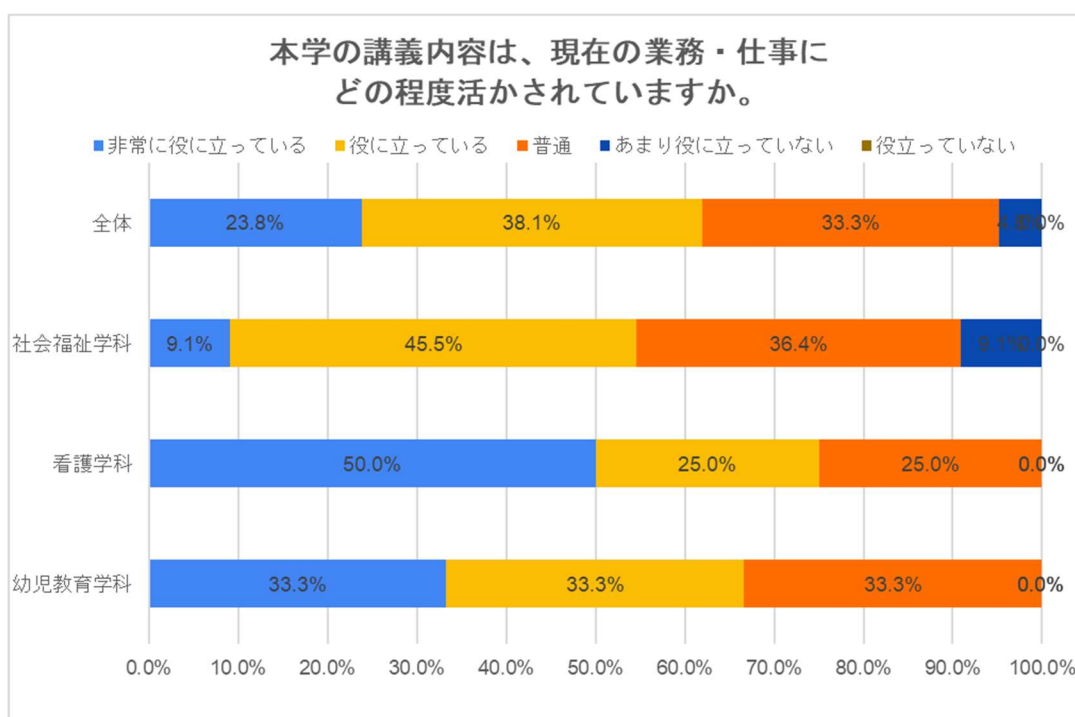
	回答数	割合
介護	6	28.6%
看護	4	19.0%
保育・教育	6	28.6%
指導員	3	14.3%
支援員	1	4.8%
学生	1	4.8%
合計	21	100.0%



2. 現在のあなたの仕事からみた、本学の「講義全般」について

(1) 本学の講義内容は、現在の業務・仕事にどの程度活かされていますか。

	非常に役に立っている	役に立っている	普通	あまり役に立っていない	役立っていない	評価平均
社会福祉学科	1 9.09%	5 45.45%	4 36.36%	1 9.09%	0 0.00%	3.55
看護学科	2 50.00%	1 25.00%	1 25.00%	0 0.00%	0 0.00%	4.25
幼児教育学科	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	4
全体	5 23.81%	8 38.10%	7 33.33%	1 4.76%	0 0.00%	3.81



(2) 現在の仕事で特に役立っていると思う科目、または講義内容を教えてください。

◆社会福祉学科

介護の基本（全て）、生活支援技術、認知症、医療的ケア、障害の理解、こころとからだのしくみ、相談援助の模擬演習、介護総合演習、介護過程（アセスメント・個別ケア計画）、コミュニケーション技術、精神医学と精神医療、臨床美術、心理学（ラポール、オープン・クエスチョン等）

◆看護学科

臨地実習、解剖生理、臨床倫理、領域別講義、看護技術

◆幼児教育学科

教育原理、発達障害に関する内容、保育・教育実習指導、音楽表現（ピアノ）、人間関係、ゼミ（心理学）

(3) 講義について、「もっと学びたかったこと・改善してほしいこと」を教えてください。

◆社会福祉学科

- ・コミュニケーションの取り方の実践演習を増やしてほしい
- ・DVD教材等で多様な介護現場(特養、老健、グループホーム等)の働くイメージを具体的に知りたい

◆看護学科

(特になし)

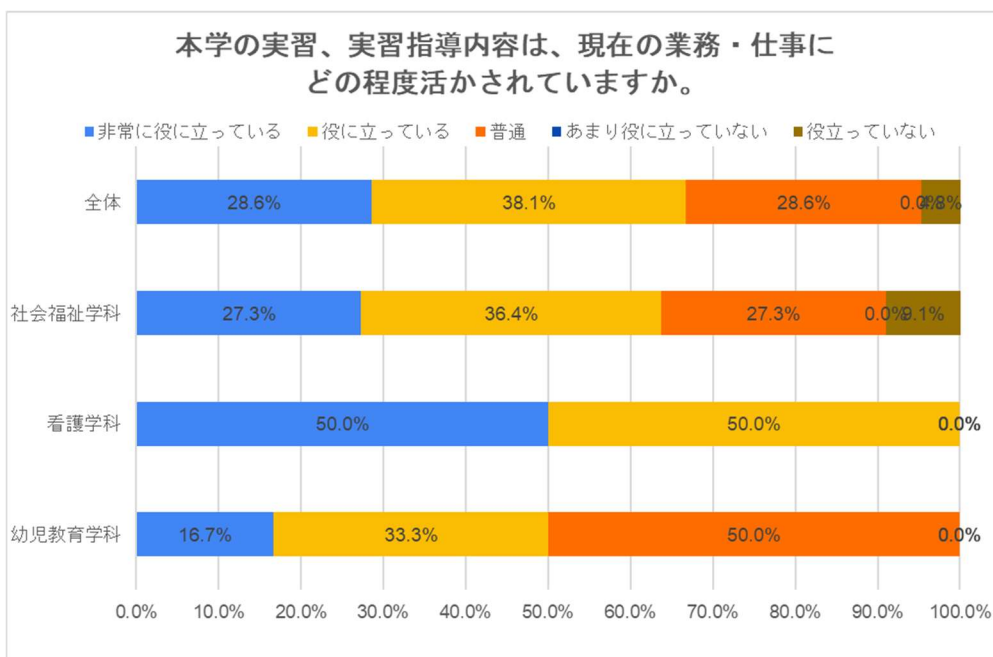
◆幼児教育学科

- ・ドキュメンテーション(記録・掲示物)の作り方
- ・発達障害児(重度、軽度、発達障害)との関わり方
- ・遊びのアイデア、手遊び、ミニゲームなどの実践的な技術
- ・教材作りの機会

3. 現在のあなたの仕事からみた、本学の「実習」について

(1) 本学の实習、実習指導内容は、現在の業務・仕事にどの程度活かされていますか。

	非常に役に立っている	役に立っている	普通	あまり役に立っていない	役に立っていない	評価平均
社会福祉学科	3 27.3%	4 36.4%	3 27.3%	0 0.0%	1 9.1%	3.73
看護学科	2 50.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4.5
幼児教育学科	1 16.7%	2 33.3%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	3.67
全体	6 28.6%	8 38.1%	6 28.6%	0 0.0%	1 4.8%	3.86



(2) 現在の仕事に特に活かされていると思う実習・実習指導内容を教えてください。

◆社会福祉学科

利用者とのコミュニケーション、関係形成(ラポール形成)、レクリエーションの実施、介護現場の見学と技術の実践、生活支援技術、記録の書き方

◆看護学科

領域別実習、周術期看護

◆幼児教育学科

部分実習、全日実習、指導案の書き方、子どもとの直接的な関わり

(3) 実習について、「もっと学びたかったこと・改善してほしいこと」を教えてください。

◆社会福祉学科

- ・排泄交換は1年の実習でも積極的に実践を始めて欲しい
- ・特にありません。ただ、友人間の話のなかで実習先での実践的な学びに差を感じるがありました。(生徒の自発性の有無もあるとは思いますが)
- ・実習についてなんですが、特養、老健だけではなくグループホームなど細かい実習を行った方が就職が見つかると思う。
- ・対子どもとの関わりを学びたかった。

◆看護学科

(回答なし)

◆幼児教育学科

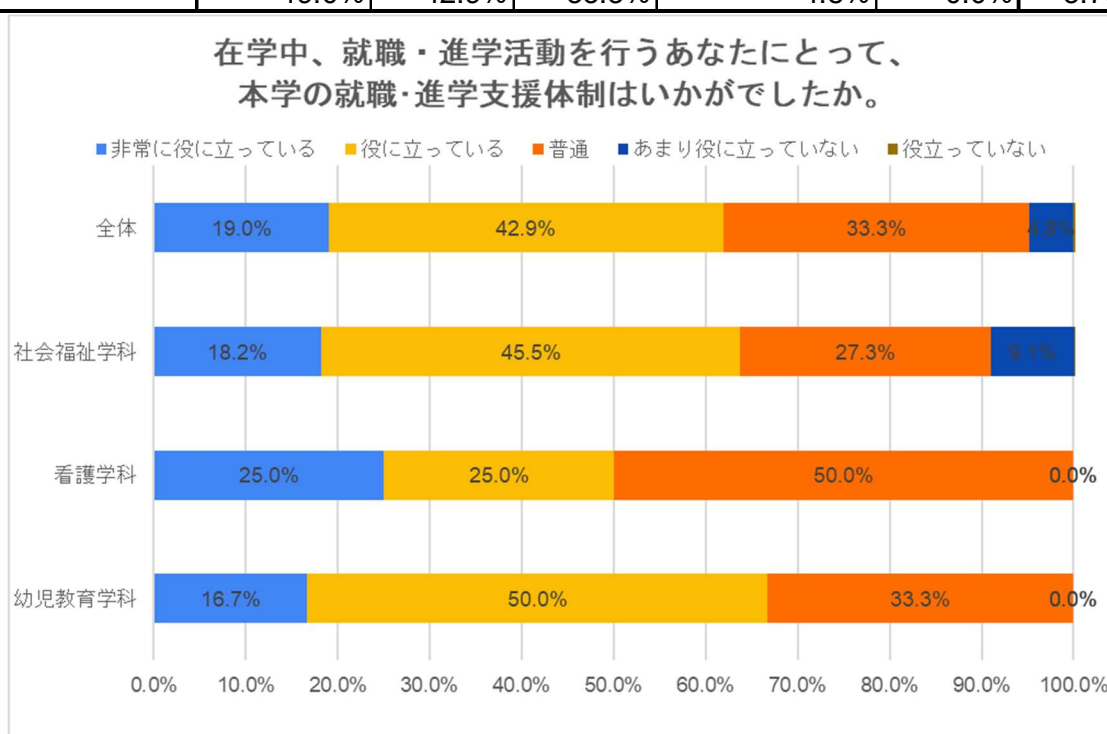
- ・文章の書き方
- ・部分実習などをもっと自分から積極的に行っていたらよかった。実習の準備の時間がほしい。

.

4. 本学の就職・進学支援体制

(1) 在学中、就職・進学活動を行うあなたにとって、本学の就職・進学支援体制はいかがでしたか。

	非常に役に立っている	役に立っている	普通	あまり役に立っていない	役立っていない	評価平均
社会福祉学科	2 18.2%	5 45.5%	3 27.3%	1 9.1%	0 0.0%	3.73
看護学科	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	3.75
幼児教育学科	1 16.7%	3 50.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3.83
全体	4 19.0%	9 42.9%	7 33.3%	1 4.8%	0 0.0%	3.76



(2) 就職サポートへの要望を教えてください。

◆社会福祉学科

- ・就職の時にどこで何を調べればいいのかわからなかった時に先生が色々なサイトを教えてくれたところ
- ・特にありません。所属していたサークルの先生に相談させていただき、施設の良さだけでなく、自分の性格等も考慮した施設を紹介していただきました。本当にありがたかったです。

◆看護学科

(特になし)

◆幼児教育学科

・公務員講座を受けていたが、数学以外もできたら良かった。(英語など)面接練習の時間を授業で少し取り入れてほしい。自分から先生に行かないと練習できず時間を見つけるのが大変だった。

5. 卒業後のサポート

(1) 今後受講してみたい講座、セミナーや、開催して欲しい行事・イベントなどあればご自由にお書き下さい。

(回答なし)

6. 後輩へのアドバイス

(1) 就職をしてみて「学生時代にもっとこうしたほうが良い」という後輩へのアドバイスがあれば教えてください。(※履修選択、受講、勉強、学生生活、就職・進学、何でも結構です)

◆社会福祉学科

就職先を見つけるのはハローワークが一番いいと思います。模擬面接や履歴書の書き方など丁寧に教えて下さると思うのでいいと思います。
目指す就職・進学進路に関係する施設へ出向き、アルバイトやボランティア活動を行うこと。講義で聞くだけでなく、もっと現場を知る機会を増やすと勉強や経験になって強みになります。
介護福祉士は高齢者を対象とした職業ですが、現場に出ると様々な疾患や心理状態、生活状況等に触れるようになります。介護に限らず対人支援においては、さまざまな人がいて、その人に合った個別支援が要になります。あまり興味がなくてもいろいろな知識に少しだけでも触れていることで進学・就職後だけでなく、これからの生活に役立つと思います。
楽しく学園生活を送ること
バイト
日常生活の中で勉強する癖をつけておくこと。
実習を全力で取り組むこと、積極的に質問を行うこと。
勉強で悩んだら、一人で抱え込まず、友達や先生方にわからないところは遠慮せずに教えて頂いたり、ボランティアなどいろんな行事に参加していろいろな経験を積むことが大切だと考える。
記録を書くことが多くあるので、文章に触れること書くことは大切だと感じました。
就活は早めに進める 様々な授業にチャレンジしてみる
もっと色々な福祉施設等にボランティアに行った方がいい。ボランティアに行くことで色々な施設を知ることができ、利用者(児)と関わる経験も増える。

保護者との関わり方

◆看護学科

受験勉強は遅くとも3年生の10月ぐらいから始めましょう。

実習が始まる前に興味のある病院へ見学に行かれるか情報を集めるなど自分で行動しはじめると良いと思います。

友達と遊んだり、お店とか図書館とかで勉強したり楽しい学校生活ライフを思いっきりしてほしいです。

演習を沢山したら良い

◆幼児教育学科

保護者との関わり方

特になし

いっぱい遊んで思い出作る

計画を立てて課題や準備を進める意識を持って取り組んだら良いと思う。手遊びやミニゲームはたくさん知っているほど良い。製作、歌、ピアノなど何か自分の自信のあることを見つけたら良い。その強みを伸ばしたら良いと思う。小さなことでも分からないことは質問し、自分が主で動くことを考えながら実習する。実習前に何をやってみたいか考えておく。
--

沢山遊ぶ！

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自分の武器(ピアノが得意、制作が得意など)を見つける、作ること ・授業外での教材作り |
|--|

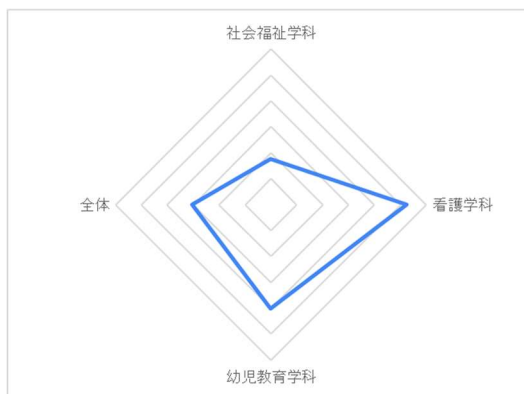
III.まとめ

令和7年3月に卒業・修了した卒業生(120名)を対象に、卒業生アンケート調査が実施され21件の回答が得られた(回収率17.5%)。

◆全体

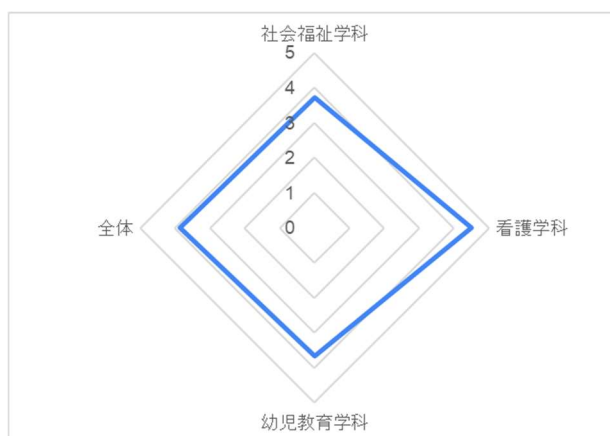
【本学の講義内容は、現在の業務・仕事にどの程度活かされているか】

学科	評価平均
社会福祉学科	3.55
看護学科	4.25
幼児教育学科	4
全体	3.81



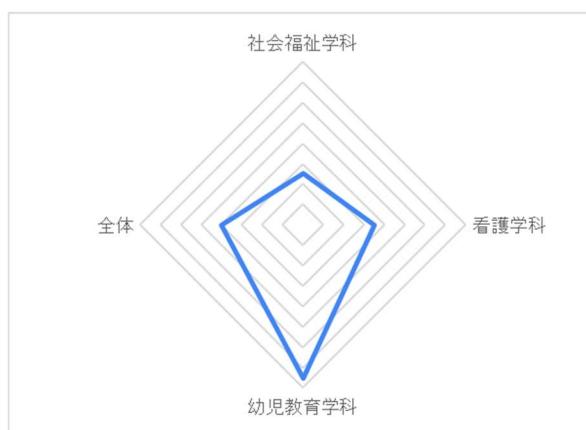
【本学の実習、実習指導内容は、現在の業務・仕事にどの程度活かされているか】

学科	評価平均
社会福祉学科	3.73
看護学科	4.5
幼児教育学科	3.67
全体	3.86



【在学中、就職・進学活動を行うあなたにとって、本学の就職・進学支援体制はどうだったか】

学科	評価平均
社会福祉学科	3.73
看護学科	3.75
幼児教育学科	3.83
全体	3.76



2025年度調査(21件)の結果、講義・実習ともに概ね高い満足度を得ている。

◆社会福祉学科

「介護の基本」等の基礎知識に加え、相談援助のロールプレイが評価されている。一方で、就職後のミスマッチを防ぐため、より多様な施設形態を事前に知る機会が求められている。

◆看護学科:

実習と解剖生理などの基礎知識の結びつきが重要視されており、国家試験対策だけでなく「演習」の充実を求める声がある。

◆幼児教育学科:

ピアノや手遊びといった「即戦力スキル」の需要が高い。また、現場で必須となっているドキュメンテーション(記録)作成への不安が見られる。

IV. 学科ごとの考察

社会福祉学科	<p>回答数が11名(回収率37.9%)と低い。講義内容や実習に関しては概ね「役に立っている」という評価であった。特に技術面での内容が多いため、引き続き技術面の教授を充実・強化していく必要がある。一方、グループホームでの実習の要望もあったが本学の特性上(社会福祉士・精神保健福祉費・介護福祉士の養成)、障害者等施設実習を実施している。ボランティア活動や自主実習という形で様々な施設での体験に取り組めるよう環境整備が必要と考える。</p>
看護学科	<p>アンケートを54名に送付し回答が4名(回答率7.4%)であった。実施期間は10月31日から12月26日で実施されている。60%以上が考察には必よ人数と考える。そのため、次年度の調査方法には時期や実施方法に工夫が必要と考える。看護の基本となる倫理観、チームワーク、自己管理、コミュニケーションが高く、知識・、術、論理的思考、問題解決能力は低いグループである。病院に勤務した際に直ぐに必要とされる内容であるである。一方論理的思考や問題解決能力は低いため、この課題を克服していくためのプログラムの検討が必要。一方評価に低いものは、出来ているモノの下からの順位ではなく、1. 問題解決能直、論理的思考、に続き、コミュニケーション、知識の順になる。論理的思考、問題解決能力は低いが、課題の発見が黄論理的思考はチームで患者さんに対して取り組んでいく中で醸成されていくことと考える。基本的な知識と技術の獲得は、授業の工夫、学修の工夫、実習前中に経験する中で、系統的に学習が進められるように工夫を行う必要がある。</p>
幼児教育学科	<p>①現場ですぐに使えるあそびの技術が重要とされる傾向が従来からある。実習指導や関連科目において、手遊びやエプロンシアター、パネルシアターなどの技術を学ぶ時間をさらに確保し、レポートを増やす。②発達障害児の支援に関する知識が重要とするコメントがここ数年多く見られる。保育所等で障害児の保育実践に即応することが求められていること、また、近年、放課後等デイに就職する学生が増えていることがその要因と思われる。コース制の構想の中で科目を充実することを検討する。</p> <p>③今年度も学外実習体験を重視する指摘が複数あった。実習体験が濃密なほど、実践でやっていける実力がついていくことが推測できる。実習体験を深める指導が今後も必要。</p> <p>④保育現場に合った実践的な文章作成について、扱う科目、指導内容を学科で確認し具体的な方法を定める。</p>

V. 2024年調査結果との比較

2024年度の卒業生アンケートでは回答数23件、回収率21.2%であったのに対し、2025年度は回答数21件と若干減少した。講義や実習の評価は2024年度と同様に「4」「5」の肯定的評価が6割前後を占め、実習の方がやや高い評価となっている。

今回の調査では、昨年度の課題であった「回答の具体性」が向上しており、特に幼児教育学科から実務に即した詳細なフィードバックが得られた。2024年度の報告書では「メンタルケアの学習」や「薬剤知識」の充実、実習での電子カルテ操作や業務の流れを学ぶことなどが要望として挙げられていたが、2025年度ではそうした声は少なく、代わりに「コミュニケーション技術や実践的な教材作りなどが強調」されている。

また、2024年度の回答で「卒業生同士が集まる機会」や「ビンゴ大会」などのイベント要望は、2025年度では記載がなかった。これは回答者の関心が就職や現場スキルに移った可能性を示唆している。

全体としては、実習経験の充実や支援体制の強化といった基本的な課題は継続しており、今後の改善点として、「ドキュメンテーション（ICT活用を含む記録）の指導強化、および「多様な施設種別の理解促進」をカリキュラムやキャリア支援に取り入れることが有効であると考えられる。

次に2024年度の教職員による考察内容と、添付された2025年度の調査結果（報告書案）を比較し、各学科の改善状況や課題の継続性について分析したところ下記の傾向が見られた。

◆社会福祉学科

技術面の充実（2024年考察：技術面の教授を充実・強化する必要がある）

分析：2025年度の結果では、役立っている講義として「生活支援技術」「相談援助の模擬演習」が挙げられており、一定の成果が見られた。

新たな課題：一方で、講義・実習ともに「コミュニケーションの実践演習」や「排泄交換の早期実践」を求める声があり、技術教育へのさらなる要望が具体化している。

現場理解の促進

分析：2024年には言及がありませんでしたが、2025年度は「多様な介護現場（グループホーム等）のイメージ」を具体的に知りたいという要望が出ており、就職後のミスマッチ防止に向けた新たな視点が必要です。

◆看護学科

回答数の確保（2024年考察：回答が極めて少なく偏っている）

分析：2025年度の看護学科の回答数は、報告書全体のまとめから推察すると、依然として大きな改善には至っていない可能性がある（全体で21件に減少）。

実習内容の検討と演習の充実（2024年考察：実習が役立っていない理由の検討、演習の充実が必要）

分析：2025年度の結果では、役立っている点として「領域別実習」「看護技術」が挙げられており、前年の「衝撃的な結果」からは一定の回復が見られた。また、後輩へのアドバイスでも「演習をたくさんしたら良い」という声があり、演習の重要性が学生間でも認識されていると言える。

実務的な学び(2024年考察:メンタルケア、薬剤関連、周術期などの要望)

分析: 2025年度は「周術期看護」が役立っている実習として挙げられており、前年の要望が反映された教育が行われたことが推察される。

◆幼児教育学科**コミュニケーションと改善課題の共有(2024年考察:在学生との関係性重視、学科教員での情報共有)**

分析: 2025年度は、役立っている科目に「発達障害に関する内容」「ピアノ」「人間関係」が挙げられており、教員間での課題共有が教育内容に反映されている様子が伺える。

実践的スキルの要望(2024年考察:もっと学びたかった項目の改善)

分析: 2025年度は「ドキュメンテーション(記録・掲示物)の作り方」や「手遊び・ミニゲーム」など、より現場に即した具体的な技術への要望が明確になっている。これは前年の「改善課題への取り組み」が、より詳細なニーズの掘り出しにつながった結果と言える。

◆全体的な分析(回収率と調査手法)**アンケート回答数の向上(2024年考察:行事の活用等で数を増やすべき)**

分析: 2025年度の回収率は17.5%(21件)であり、2024年度の21.2%(23件)から微減している。QRコードやメールの活用など手法の工夫は見られるが、2024年度の考察で指摘された「行事の活用」による回答数増加という課題は、依然として継続している。

◆結論

2024年度の考察に基づき、「看護学科の実習内容の見直し」や「幼児教育学科の実践的スキルへの注力」については、2025年度のアンケート結果に肯定的な反応やより具体的な要望として現れており、改善の兆しが見られた。しかし、「回答数の確保」という根本的な課題については、2025年度も達成できておらず、次年度に向けてさらなる工夫(ドキュメンテーション指導の強化や、多様な施設種別の理解促進など)が求められている。

2025年度卒業生アンケートからは、講義と実習の効果が現場で活かされていることが確認できた一方、実習先や学びの機会にばらつきがあり、特定分野の強化を求める声が多く挙がった。**特に社会福祉学科ではコミュニケーション技術の実践機会や多様な介護現場への対応、幼児教育学科では障害児支援や教材作りの充実が望まれている。**就職支援については一定の評価を得ているものの、**面接練習や講座の拡充など個別ニーズに応える工夫が必要**である。

後輩へのアドバイスには、**早期からの準備や現場経験の重要性**、学生生活の楽しみ方など前向きな意見が多く含まれていた。

これらの声を今後のカリキュラム改善や支援体制の見直しに活かし、学生が社会に出た後も役立つ学びを提供できるよう検討していただきたい。